

女と男の豊かな生き方を探る情報紙

Passport

パスポート



INDEX

すてきな生き方

芸術家 菊池 歩さん

特集

「男性学」を知っていますか？

トピックス

4月から女性活躍推進法が施行されます！

Vol.48

2016 鎌倉市



すてきな生き方

芸術家 ^{きくち} 菊池 ^{あゆみ} 歩さん
(長谷在住)



自由の世界で「心の花」を咲かせて



戦後70年だった平成27年8月6日～15日、市庁舎前の「平和都市宣言石碑」と入口脇の「平和の木」の周りを青いビーズの花が彩っていました。碑の前を通った時に見かけた方も多いのではないのでしょうか。そして、誰が咲かせたものなのか不思議に思われたかもしれません。この花は「こころの花」、今回お話を伺った菊池歩さんが作者です。

2006年大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレにて、ブナ林に3万本の「こころの花」を咲かせ、それが代表作となりました。

それが何故、鎌倉で再び「こころの花」を咲かせようという思いに至ったのでしょうか。

菊池さんは愛犬との散歩で平和都市宣言のモニュメントの前を通るたび、石碑の文言が気になっていました。戦後70年という言葉が飛び交っているものの、「このモニュメントの前で立ち止まる人はあまりいない、ひとりでも多くの人が立ち止まり、石碑を読み、平和の木を仰ぎ見てほしい」というレゾナードル(存在意義)、その衝動から、自ら鎌倉市役所へ飛び込んだそうで

す。鎌倉市が動いたのも画期的なことで、こうして私たち鎌倉市民は夏の短いひととき「こころの花」を目にすることができたのです。

その独創的な作風は類例が無く、2002年のデビュー当初「その他」と分類されていました。しかし菊池さんは「そもそも、分類って何でしょう、便宜上の言葉かもしれませんが、まるで囚われの世界のように思えてなりません。」と言います。生命を輝かせる菊池さんの作品はもちろん生き方からは「囚われ」を解き放つ「自由の世界」が広がります。

菊池さんは環境芸術祭の審査員をする中で、作家名や経歴は一切伏せて「作品のみ」の審査をしているそうです。固定観念、先入観ほど、可能性の枝葉をなくしてしまいかねないと思っているからです。

菊池さんは「昨今“クール”という表現がありますが、ここ鎌倉は表層的なものだけではなく、本質的な深層、美学、哲学、平たくは“こころ”といったものが緩やかな中にこそ育まれ、芸術文化のみならず、先人たちが今も共に生きて感じます。」と言います。このような視座のもと自然と作品が生まれるのでしょうか。

昨年、「こころの花」による鎌倉平和宣言を介して鎌倉市に寄せられた市民からの投書の中に「忽然と現れたビーズの花々が群れ咲く景色に驚きと喜び、大いなる共感を覚えた(中略)文化都市鎌倉の良識が、人々の共感を得て大きくうねっていく後押しになっていくかもしれない(中略)群れ咲いてほしい」とあったそうです。「決して特別なことではなく、作品や作家が為せる役割であり、鎌倉と私自身のレゾナードルそのものでありました。」と菊池さんは振り返ります。終始柔らかな口調で、でも眼差しはしっかり先を見据えている菊池さんの今後の作品がとても待ち遠しく楽しみです。

「男性学」を知っていますか？

平成27年11月、鎌倉市役所で「男性学」をテーマにした講座が開催されました。

講師は、男性学の専門家である田中俊之さん。

耳慣れない講座名に惹かれて、本紙編集委員も聴講してきました。

男性が抱える生きづらさとは、問題を抱えてしまう原因は何なのか？

講演内容の一部をご紹介します。



—— 男性学とは

男性学とは男性が男性であるがゆえに抱える問題や悩みを扱う学問です。これまで男性学者主導で男性の視点で論じられることの多かった学問領域に、女性の視点から論じる「女性学」が生まれ、これに刺激を受けて1990年代に発展した新しい学問領域が男性学です。

「女性学」は女性が抱える問題を対象にしている、例えば、結婚や妊娠を機に仕事を辞めるかどうかという悩みは、女性が女性であるゆえに抱える問題です。逆に結婚や子どもが生まれたことで仕事を辞めるという選択肢は男性にはなく、男性だからこそ抱える問題と言えます。

—— 重要な決定は男性がするべき？

男女格差をはかる指数として「ジェンダー・ギャップ指数」というものがあります。これは、政治・経済・教育・健康について男女間での平等にどのくらいの差があるかを示すもので、2014年の日本の順位は142カ国中104位でした。政治・経済の分野で、女性の社会進出が低いことが要因です。ちなみに上位5か国は北欧の国々が占めています。

しかし、これら男女格差がないとされる北欧の国にも存在する世界共通の問題があります。それは「男性はリードする側、女性はリードされる側」という認識です。

男女は平等であるべきと考える人の中にも、重要な決定は男性にしてほしいと考えている人も少なくないと思います。

しかし、この関係性を解消していかないと男女平等とは言えないのではないのでしょうか？

逆に、この関係性が「男の生きづらさ」に大きく影響しているとも思います。

—— 男性のプライド問題

アメリカの臨床心理士テレンス・リアルは著書「男はプライドの生きものだから」の中で「男のうつ病の皮肉なところは、うつ病をもたらす原因と同じ要素が、病気を正視させないように作用していることにある。男は脆弱であってはならない。苦痛は乗り越えなければならない。それができないことは恥であると思い込んでいる。」と述べています。解決の糸口があるのにそれに気づかず「男は弱くあってはいけない。苦痛を乗り越えないといけないし、それができないと恥ずかしい」と思い、ますます病気に陥ってしまうのです。一般的に「男らしい」というのは褒め言葉のように使われますが、男らしさのデメリットもしっかりと認識しておく必要があります。

—— 男性の自殺者は女性の約2倍

90年代後半～2010年代前半までの自殺者数は毎年約3万人でした。その間、女性の自殺者数が1万人にのぼったことはありません。特に2003年の自殺死亡率（※）は男性40.1に対し女性は14.5と2.88倍にもなりました。男性には、弱音を吐けない、人に悩みを相談できないという固有の問題があって、

「男性学」を 知っていますか？

特に中高年ではその傾向が強いというデータも出ています。この問題が男性の自殺死亡率に影響を与えているだろうと思います。
※自殺死亡率…人口10万人あたりの自殺者数

—— なぜ男性は問題に気付かないのか？

まず、男性主導の社会にあるためにジェンダーの問題に鈍感であるということが言えますが、男性にとって考えない方が楽な問題であるということも言えます。

男性は40年間フルタイムで働く以外の生き方がほとんど許されていないのが現状です。

しかし、仕事中心の人生に疑問をもち、家族中心・地域中心の生き方をしたいと思っても、家のローン、食費、子どもの学費等の費用が夫の収入にかかっているために、仕事を辞める選択肢は無く、「考えてもしょうがない問題」となるのです。

私は、ここが男性の持つ苦しみではないかと思っています。

—— “平日昼間問題”

働き盛りの男性が、平日の昼間にブラブラしていると怪しいと思われる問題を「平日昼間問題」と言います。

サービス業などは平日がお休みの場合もありますし、平日の昼間に地域に男性がいても何もおかしくはないのですが、多くの人に、「普通」の男性は平日の昼間は働いているはずという思い込みがあるのです。

これでは、育児休業もとりにくいし、主夫も楽しく生きていきません。

—— 定年退職者の悩み

定年退職者の悩みは「自分の居場所を失ってしまう」ことです。

仕事中心の生活をしてきたために、退職しても近所に知り合いがいなく、することがない。かつ、男性は「見栄っ張り」が邪魔をして自分から声をかけることが苦手です。

現状の日本では、「男は仕事、女は家庭」といった性別役割分業が徹底している状況があります。しかし、ほとんどの仕事には定年があり、男性も仕事がいつか終わることや老後に備えて自分のライフプランを考える必要があります。

定年退職後に必要なものは、「きょうよう」と「きょういく」

と言われてます。つまり「今日用」がある、「今日行く」所があるという自分の居場所作りが大切なのです。定年退職は全ての男性に訪れる職業領域中心の生活からの転換を迫られる危機なのです。

—— 若者の価値観

今の若い人に、告白は男性女性どちらからしてほしいかを聞くと、男性も女性も8割が男性と答えます。また、プロポーズについては9割が「男性から」と答えます。

このような、重要な決断は男性にして欲しいと女性が期待していること自体が、男女平等を妨げていると思います。

逆に、女性が期待していないのに、男性が勝手に男はこうでなければならないと思込んでいる部分もあります。例えば、学生を対象としたデート中の支払に関するアンケートでは、7割5分の女性が割り勘もしくは自分が食べた分だけ支払うと答えているのに対し、約半数の男性が女性より多めに払うと答えています。

男性は、こういった客観的なデータをみて、女性が期待していない「男らしさ」の思い込みで、男性が生きづらくなっていないか確認をする必要があると思います。

—— 多様な生き方があっていい

「男女共同参画」というと難しく思うかもしれませんが、性別に捉われずにいろんな生き方があっていいじゃないか、と訴えているだけなのです。

主婦でなく主夫がいたっていいし、バリバリ働きたい女性がいてもいい。

いろんな生き方があっていいはずなのに、皆、男はこう、女はこうという認識にとらわれすぎなのです。

性別にとらわれない多様な生き方を実現することこそ、すべての人が生きやすい社会になると考えます。



田中 俊之氏 プロフィール

武蔵大学社会学部助教。
社会学・男性学・キャリア教育論を主な研究分野とする。
2014年度武蔵大学学生授業アンケートによる
授業評価ナンバー1教員。

笑いも交えた軽やかな口調でわかりやすい男性学講座でした。

女性である自分自身の意識の奥にも、男はこうあるべきだと思っていたことに気づかされるとともに、男らしさや、女らしさではなく、人間らしい生き方を提唱する男性学は最先端のジェンダー論であると感じました。



4月から女性活躍推進法が施行されます！

女性が職業生活において、その希望に応じて十分に能力を発揮し、活躍できる環境を整備するため、平成27年8月、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）が成立し、平成28年4月から施行されます。

これにより、平成28年4月1日までに、労働者301人以上の企業は、下記の3点を行うことが義務づけられました。

- ① 自社の女性の活躍状況の把握・課題分析
- ② 行動計画の策定、届出、周知、公表
- ③ 女性の活躍に関する情報の公表

この法律の施行によって、職業生活における男女間の格差が是正されるだけでなく、女性も男性も家事、育児や介護をしながら活躍できる職場環境が整備されることが期待されます。

レポート | REPORT

男女共同参画セミナー「鎌倉しふおん流 “女性の起業” 成功レシピ」を開催しました



平成28年2月、鎌倉市とかまくら男女共同参画市民ネットワーク「アンサンプル21」の共催による男女共同参画セミナーが開催されました。

講師は、鎌倉市農協連即売所内にあるシフォンケーキ専門店「鎌倉しふおん」店主の青井聡子さん。女性起業家として活躍している青井さんに、シフォンケーキのお店を開いた経緯や、子育てとの両立など、ご自身の経験をもとにお話をいただきました。

定員を上回る申込みがあり、関心の高さがうかがえた本セミナー、当日も参加者の皆さんは青井さんのお話を熱心に聴いていらっしゃいました。



絵画・写真・手工芸・会議に

**カトレヤギャラリー
&
レンタルスペース**

鎌倉駅東口
徒歩2分

ご予約・お問合せ

鎌倉市小町 1-5-27カトレヤビル2F <http://www.katoreya.co.jp>
TEL 0467-23-2530 FAX 0467-24-3638

I K E B A N A S A L O N

いけばなサロン

いけばなと国際交流を楽しみましょう！

小原流若樹会代表・小原流一級家元教授

栗村 淑香

鎌倉市佐助1-10-25 T/F 0467-23-3190